まえがき

『東京芸術大学百年史　音楽学部篇』刊行の運びとなりました。本巻をもって、昭和六十二年十月に刊行を開始した『東京芸術大学百年史』音楽篇全六巻の完結となります。

昭和二十四年、新学制により東京音楽学校から東京芸術大学音楽学部として新たに出発した本学は、昭和六十二年に東京音楽学校創設から起算して創立百周年を迎えました。本巻は音楽学部の約四十年間の歩みをまとめたものです。

終戦から東京芸術大学音楽学部が発足するまでの数年間、東京音楽学校内部では、さまざまな将来構想が検討されていました。本巻第一章「音楽学部の発足」は、おもにこの時期の様子を伝える資料を掲載するものです。

新制大学への昇格を求める声があがる一方、専門学校が望ましいとする意見もあり、新制の音楽高等学校の構想も出され、さらには幼児教育から大学まで一貫した専門教育が受けられる機関が提案されるなど、さまざまな進路が模索され、具体案作りが行われていました。その模様はすでに、本百年史『東京音楽学校篇　第二巻』に記されていますが、本巻では、学則改正や大学設置申請など、新たに調査・確認された原資料により、新制大学発足の経緯をいっそう明らかにしています。

第二章「制度の変遷」では科や専攻の増設はもとより、順次新設される専攻科、大学院、別科、教員養成課程などを扱います。募集要項や入学試験問題も学内に保管されていた資料から掲載しています。

続く第三章「音楽学部付属施設・関連事業」では、附属音楽高等学校、通信教育、公開講座、周年事業、管弦楽研究部、オペラ研究部などを取り上げます。東京音楽学校以来の同窓会組織「同声会」についても、ここで発足当初からの歩みをま

とめました。周年事業については、演奏会関係資料はすでに本百年史『演奏会篇』に掲載していますので、本巻にはそれ以外の資料を収めました。

第四章「社会的な出来事」では、重要な三つの事柄①邦楽科設置問題、②学生運動、③奏楽堂問題について原資料に基づいて新たにまとめました。

①新制大学となるさい、邦楽科の存廃が問題となりました。邦楽科廃止を主張する校長に対し、邦楽科の存続・設置を主張する全教官が辞表を提出、深刻な事態へと発展しました。本巻では、この問題を音楽学部の問題であると同時に社会的な出来事として捉え、広汎な資料を網羅しました。

②本学での学生運動は過激なものではありませんでしたが、学生側から大学当局へのさまざまな働きかけがあり、そのなかから建設的な意見は学内の改革に反映されました。学内に保管される資料に基づき当時の状況を整理しました。

③明治二十三年に建設された旧奏楽堂の老朽化にともない、大学は新奏楽堂建設のために旧奏楽堂を取り壊し、明治村へ移転するという教授会決議を行いました。しかし、この決議は旧奏楽堂の現地保存を求める運動により阻止され、方針変更を余儀なくされました。旧奏楽堂は現在も上野公園内に保存され現役の演奏会場として活用されています。建設計画が大幅に遅れた新しい奏楽堂は、平成十年三月、旧奏楽堂の跡地に竣功しました。奏楽堂問題は、これまで一部のマスコミ、新聞報道などによって周知されてきましたので、今回、学内外資料を再調査しこの問題を取り上げました。

巻末には、建物の変遷、学生に関する統計表、および教官に関する一覧表・在職年表を付して資料としました。常勤教官については『東京音楽学校篇　第二巻』と同様に一覧表と在職年表に記載し、非常勤教官については本巻では氏名と担当分野のみ記しました。

本巻のための資料収集は昭和五十六年頃、本百年史編集の計画と同時に開始しました。その後、『東京音楽学校篇　第一巻』『演奏会篇　第一巻』『同　第二巻』『同　第三巻』を刊行し、『東京音楽学校篇　第二巻』の編集をほぼ終えた平成十三

年度と十四年度、後掲のスタッフ九名が加わり、最終的な資料整理ならびに原稿作成を行いました。

『音楽学部篇』も、既刊同様、大勢の方々のご協力によって刊行が実現しました。

まず、出版を引き受けてくださった音楽之友社取締役社長岡部博司氏、直接担当された同社出版部林靖章氏に厚くお礼申し上げます。本百年史『東京音楽学校篇　第一巻』刊行時にもご担当いただいた林氏には、並はずれて手間のかかる原稿を、正確かつ迅速に刊行へと導いていただきました。同氏の敏腕なしには今回の刊行スケジュールを遂行することは不可能であったと言えるでしょう。

また全六巻刊行までの長い道のりを、あたたかく見守ってくださった元編集委員の服部幸三氏、大石清氏、角倉一朗氏、森節氏、大貫紀子氏に深く感謝申し上げます。

本巻作製にさいしては、関係各方面よりご教示ご協力賜りましたことを記し、お礼申し上げます。とりわけ文部科学省はじめ全国の大学、各種教育機関、市区町村の教育関係部署、衆議院庶務部、国立国会図書館には、掲載資料の正確を期すため、幾度となく照会をさせていただきましたが、そのつど、快くご調査、ご回答を頂きました。

学内においては資料確認のため、関係各部署、各科教官室にご協力いただきました。

本学現教官、元教官、卒業生、ならびに多くのご関係の方々からも数々のご助言を頂きました。

とくに吉川英士元教授には、「邦楽科設置問題」に関する貴重な資料を快くご貸与いただき、数々ご教示賜りました。

また本学同声会事務局には発足当初の資料収集から個別の調査に至るまで、長年にわたりお世話になりました。

さらに本学卒業生の福井尚志氏には、『東京音楽学校篇　第二巻』および本巻の巻末資料「教官一覧・在職年表」作成のため、データベースの構築を引き受けていただきました。

最後に、大河内文恵、国府華子、鈴木千帆、村上康子、山原麻紀子の各氏は本巻の資料調査・整理、石田桜子、勝谷祥子の両氏はそれらに加えて校正・索引作成、平沢博子、三宅由美子の両氏は同じく著作物転載に関する諸手続きなどの編集実

務に携わりました。ここにお名前をあげてお骨折りに感謝の意を表します。

平成十六年一月

山本文茂
船山隆
土田英三郎
佐野靖
橋本久美子